「うとんうまかデー」で網田地区のみかんをいただきました!

前途洋々

「ふるさとくまさんデー」で、県内各地にちなんだ献立を月に１回いただいていることは以前お伝えしましたが、宇土のおいしい食べ物を紹介する日としても、「うとんうまかデー」が給食には設定されています。今月は、２８日（水）に、網田地区で収穫されたみかんをいただきました。宇土半島はご存じのとおりみかんの栽培が盛んです。私は三角出身なので、小さい頃からたくさん食べて育ちました。先日、三角の知り合いからみかんをいただいたのですが、今年は雨が少なかったせいか、非常に甘いという話を聞きました。この時期の出始めのみかんはとてもおいしいですよね。この日の献立は「コーンとたまごのスープ、ホイコーロー、みかん」でした。ここ数年、食材費は高値のままで推移していますが、そんな中、給食はとてもよく工夫して作ってあります。毎日当たり前のようにいただいていますが、その影には日々多くの方々の努力があることを忘れずにいただきたいですね。





校内研修　～　11月の研究授業へ向けて

１１月２５日（水）は、１年３組で算数の研究授業を予定しています。前回の算数の研究授業と同じく、県立教育センターから講師の先生をお招きし、助言をいただきます。今回取り上げる単元は、「どちらがひろい」というところで、身の回りにあるものの面積に関心をもち、直接比較や任意単位による比較で、面積を比べることができるようになることを目標としています。本時では、めあてとして、広さの比べ方を考えることを設定しました。子供たちは、広さが違うものをどうやって比較していくか、ものを操作したり、任意単位を使ったりしながら考えていきます。普段の生活の中でもよく遭遇する場面ですよね。その方法を説明できることも大切になっていきます。長さや量、大きさについては、生活の中で感覚的につかむことも大切なことです。「○○までは、○メートルくらいかな」「あの容器には△リットルくらい入りそうだね」など、やり取りの中で意識的に使ってみてもいいかもしれません。協議では非常に多くの意見が出て、これこそ「事前研の醍醐味！」といったところでした。本番もとても楽しみです。



６年生が製作した「うと地蔵まつり」のつくりもんは児童玄関に
「宇土のつくりもん」はいつから始まった？

令和８年熊本地震のため、今年の「うと地蔵まつり」は、「うと地蔵まつり復興祈念花火」として１１月２１日（土）の午後７時から３０分程度開催される予定ですが、「つくりもん」の展示は見送られることになりました。６年生が作った「学校」とタイトルの付けられた「つくりもん」は、今児童玄関で児童やお客さんを迎えています。さて、「宇土の今昔　百ものがたり（宇土市）」によると、宇土の地蔵まつりがいつから行われているのかを知る確かな資料は残されていないそうです。また、地蔵まつり発祥の地と伝えられる本町６丁目の円応寺には、境内に６体の地蔵菩薩が祀られており、これらは１６４６年（正保３年）、当時流行っていた疫病を鎮めるために造立されたものだと言われているそうです。地蔵まつりと同様、「つくりもん」がいつから作られ始めたのかも定かではなく、明治２０年代の新聞を見ると、その頃すでに「つくりもん」が祭りの名物だったことが分かるとか。大正時代になると「つくりもん」の数は２００以上にもなり、その後昭和１０年代にかけて爆発的な盛り上がりを見せたと記してあります。はるか昔から人々の思いをつないできた祭りに、このような形で子供たちや市民の方々が関わっていると思うと感慨深いものがあります。今回は、通りでの展示は叶いませんでしたが、歴史に思いを馳せながら「つくりもん」を眺めると、また一つ違った見方ができますね。（**写真：６年生が製作した今年の「つくりもん」**）

